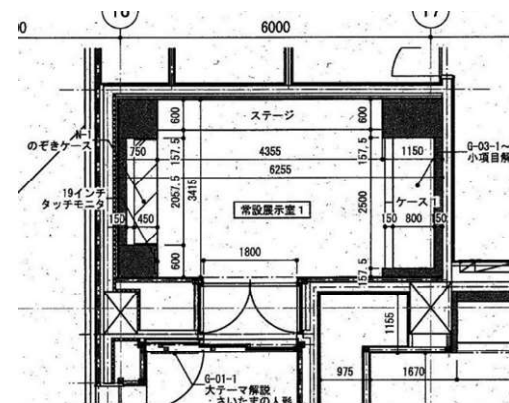


1. 資料調査について

(1) 人形産業についての調査

「(仮称) 岩槻人形博物館」の展示構成検討のために岩槻の人形作りについての調査を継続的に実施した。



展示室1「さいたまの人形」(平面図)

- 資料収集
 - ・職人、元職人宅に残る人形製作道具の所在調査と寄贈、寄託、購入による収集
 - ・古写真、広告などの所在調査と収集
- ヒアリング調査
 - ・人形の製作技術と流通、暮らしについて
 - ・小道具、スガ糸、桐箱、胡粉など関連産業
- 文献資料調査
 - ・国会図書館等の機関で新聞記事、業界誌などから、埼玉県内の産地にかかわる記事を探して複写。

2. 収蔵品管理システムの構築について

平成 26 年度に Access で作成した「(仮称) 岩槻人形博物館データベース (収蔵品管理システム)」の入力を進めており、平成 30 年中に博物館専用データベース商品に切り替える予定で、ホームページ開設計画とも連動させて進めている。

3. 修復について

平成 29 年度は笛吹コレクションの大物 (勅使行列、花車など) が終了し、浅原コレクションの人形修復に着手した。今年度は 45 点が終了した。平成 21 年度より継続的におこなっている人形修復事業の成果としては、231 件 (360 点) の修復が終了した。また紙資料については、昨年度に引き続き、西澤笛吹の絵画作品「昆虫蛇写生」(大正時代の昆虫図鑑下絵) の修復を実施した。

- ・人形等資料 27 件 (45 点)
- ・紙資料 1 件 (33 枚)

4. 来年度の事業計画

平成 30 年度の事業計画としては以下のものを予定している。

- ① 岩槻の人形作りについての映像、スチール撮影 (展示室 1 を構成するため)
- ② プレ事業 (パネル展など)
- ③ 寄贈申請資料の調査

近代に化粧品ブランドで成長した東京の老舗商家から雛人形や近代の作家資料など約 200 点の寄贈申請があり、調査をする予定。(※別紙参照)

5. プレイベント

平成 29 年度所蔵品展「さいたまの人形作り」

- ① 日 時：平成 30 年 1 月 10 日 (水) ~1 月 19 日 (金)
- ② 会 場：さいたま市プラザノース ギャラリー 7
- ③ 内 容：岩槻をはじめとした埼玉県の人形作りを紹介した。(1) 産地の移り変わり (2) 岩槻で生まれた人形、(3) 人形作りの技、という三つの構成で、文献資料や人形、人形製作道具などを展示した。
- ④ 関連行事：ギャラリートークと人形製作風景の映像解説
- ⑤ 来場者数：561 名
- ⑥ アンケート結果集計 (※別紙参照)



(2) 染織調査

有識者 (京都・西陣織物館顧問) による江戸時代の人形衣装の染織調査を実施した。人形の様式論は確立しておらず、年代や産地など伝来背景を推定することはなかなか難しい。人形の大半が衣装を身に着けているため、染織品の鑑定は重要な手がかりになると思われ、2 日間かけて鑑定調査を実施した。

【鑑定結果の例】

寛永雛 (浅原コレクション C731-1・2)

- ① 男雛・女雛の袴は初期の縮緬が使われ、茜染めの可能性がある。江戸時代中期に紅染めが主流となる以前のもので、古様である。
- ② 衣装に用いられている金蘭は縞子地別格。「別格」は「地格」に対し、元禄期以降主流となる。また、「縞子地」は「綾地」に対し、元禄・享保頃から主流となる。
- ③ 以上の点から、元禄・享保期から文化・文政期の間に制作されたことが推測され、「寛永雛」は坐雛のなかで古い形式に類するという様式上の見解とほぼ一致する結果となった。

